

平成 28 年度

# 川崎市立中学校 学習状況調査 報告書

川崎市教育委員会・川崎市立中学校長会

## はじめに

川崎市教育委員会  
教育長 渡邊 直美

本市では、平成 27 年 3 月に、概ね 10 年間の教育振興基本計画として、第 2 次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」を策定しました。本プランの基本理念に、「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」と定めるとともに、基本目標に「自主・自立」「共生・協働」をキーワードとしながら、社会的自立に必要な能力・態度、共生・協働の精神と実践力を育むことを位置づけ、様々な施策を進めております。

川崎市立中学校学習状況調査は、教育プランの「基本政策Ⅱ 学ぶ意欲を育て、『生きる力』を伸ばす」の「確かな学力の育成」に基づき、学力の状況を的確に把握するために、調査・研究を行い、子どもたちが「わかる」を実感できる授業づくりにその結果を活用することを目的として実施しております。

本報告書では、国語、社会、数学、理科、英語に関する調査について出題の趣旨や正答及び今後の指導にあたっての授業改善案とともに、「生活や学習についてのアンケート」による生徒の学習状況の調査結果と分析を示しております。

さて、平成 28 年 12 月、中央教育審議会により「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」が取りまとめられました。2030 年の社会と、そして更にその先の豊かな未来において、一人一人の子どもたちが、自分の価値を認識するとともに、相手の価値を尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、よりよい人生とよりよい社会を築いていくために、教育課程を通じて初等中等教育が果たすべき役割が示され、その理念として「社会に開かれた教育課程」が位置付けられました。学校を変化する社会の中に位置付け、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、社会との連携・協働によりその実現を図っていくことが求められております。

各学校におかれましては、学校教育の改善・充実のために、教育課程を軸として、教科等横断的な視点から資質・能力の育成を目指していくこと、地域社会とのつながりを重視しながら学校の特色づくりを図っていくこと、地域・家庭と連携・協働により子どもたち一人一人の豊かな学びを実現していくことに、本報告書をご活用いただきと考えております。

結びに、本調査の運営・実施にあたりご尽力いただきました中学校現職教育委員会をはじめとする中学校長会の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成28年度「川崎市立中学校学習診断テスト」のまとめにあたって

川崎市立中学校長会  
会長 堀米 達也

平成28年12月に中央教育審議会より提出された「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」において、学びの質を高めるためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、授業改善に向けた取組を活性化していくことが重要であることが示されました。

川崎市では、教育に関する総合計画「かわさき教育プラン」を策定し、さまざまな教育施策を展開しております。学ぶ意欲を育て、「生きる力」を伸ばすことは「かわさき教育プラン」においても大きな柱であり、川崎市立中学校学習状況調査は、すべての子どもがわかることを目指して、一人一人の「学び」を大切にした学力向上策の事業の一つとして位置づけられております。

川崎市立中学校学習診断テストは、昭和43年度より校長会の委託事業として市内の全中学生を対象に始まり、今年度は49回目の実施となります。平成17年度からは、「かわさき教育プラン」に則り、2年生については川崎市立中学校学習状況調査として5教科のテストとともに、生活や学習についてのアンケートもあわせて実施しています。

目的といたしましては、学校や教員が子どもたちの学習状況を正確に把握し指導方法や教育課程の改善を図ること、子どもと保護者に学習状況を伝え、一人一人の子どもの学習に対する課題を明確にし、子どもが学習に取り組む態度や、家庭での学習のあり方の改善に役立てること等があげられております。このような趣旨に則り、テスト問題につきましては、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に分けて作問、分析し、2年生は個人票、1、3年生は、自己分析カードにより、生徒が学習状況を振り返り、主体的に自分の目標や課題をもって学習を進めることができるようにしております。また、報告書では、各設問を分析、考察し、今後の指導にあたっての改善点等をまとめております。

各学校におかれましては、自校の状況を把握し、学習指導や教育課程の編成等の検証・改善の資料として活用することにより授業改善の取組を進めていただければと存じます。

最後になりますが、学習診断テストの実施に際しまして、ご尽力いただきました、川崎市教育委員会、校長会現職教育委員会及び教育研究会の各教科部会、教頭会の皆様には多大な労苦をおかけしました。心より感謝申し上げます。

# 目 次

## I 調査の概要

1. 調査の目的	5
2. 調査の内容	5
3. 調査の対象	5
4. 調査実施日及び調査対象人数	5
(1) 調査実施日	5
(2) 調査対象人数	5

## II 調査結果の概要

1. 国語	9
誤答分析と学習指導上の考察	9
2. 社会	29
誤答分析と学習指導上の考察	29
3. 数学	49
誤答分析と学習指導上の考察	49
4. 理科	71
誤答分析と学習指導上の考察	71
5. 英語	89
誤答分析と学習指導上の考察	89

## III 生活や学習についてのアンケート

調査の概要	109
調査結果と分析	110
単純集計	110
クロス集計	123
各教科の正答率と相関	132
資料 調査結果集計表	134

## IV 問題用紙・解答用紙・アンケート質問紙

国語	143
社会	172
数学	216
理科	236
英語	279

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

## 2. 調査の内容

### ○国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

### ○学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

## 3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

## 4. 調査実施日及び調査対象人数

### (1) 調査実施日

平成28年11月8日（火）

### (2) 調査対象人数

中学校第1学年	9,639人
中学校第2学年	9,852人
中学校第3学年	9,779人



## Ⅱ 調査結果の概要

